

世界の自然災害

03



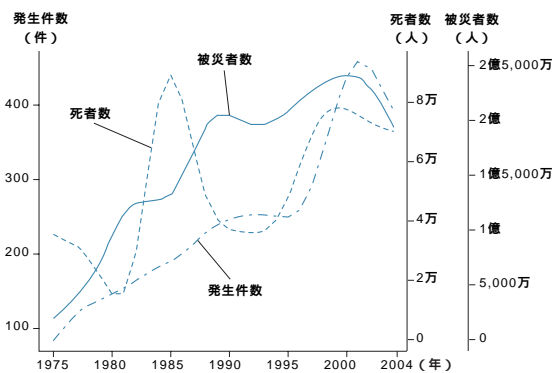
参考：EM-DAT：The OFDA / CRED International Disaster Database (http://www.em-dat.net) -Universite Catholique de Louvain - Brussels - Belgium、ほか

B 自然災害の傾向

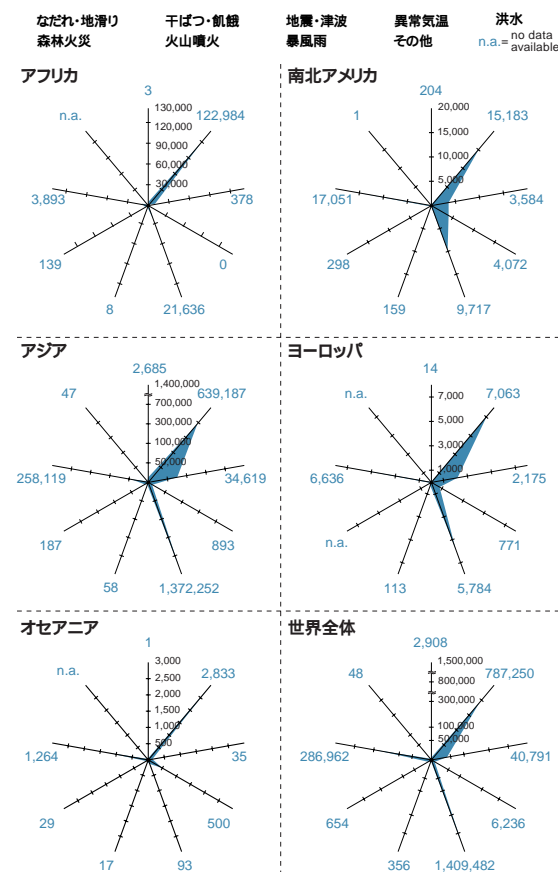
DATA

出典：EM-DAT、国際赤十字・赤新月社連盟「World Disasters Report 2005」

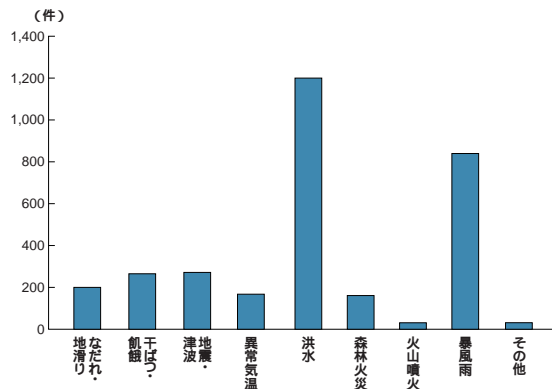
(グラフ1) 自然災害の発生件数、死者数、被災者数の傾向 1975-2004年



(グラフ2) 大陸別、災害タイプ別の被災者数 1995-2004年 (単位：1,000人)



(グラフ3) 自然災害タイプ別報告数 1975-2004年



増える自然災害

グラフ1は、ここ30年間に起きた自然災害の発生件数、死者数、被災者数の傾向を示している。増減はあるものの、いずれも徐々に増えていることが分かる。

グラフ2では、過去10年間の災害タイプ別被災者数の合計を大陸別に示した。グラフ3は、世界の災害タイプ別報告数だ。報告数としては、洪水、暴風雨、地震・津波、干ばつ・飢餓の順に多いが、被災者数は、洪水、干ばつ・飢餓、暴風雨、地震・津波の順に多くなっている。大陸別の特徴は、アジアでは干ばつや飢

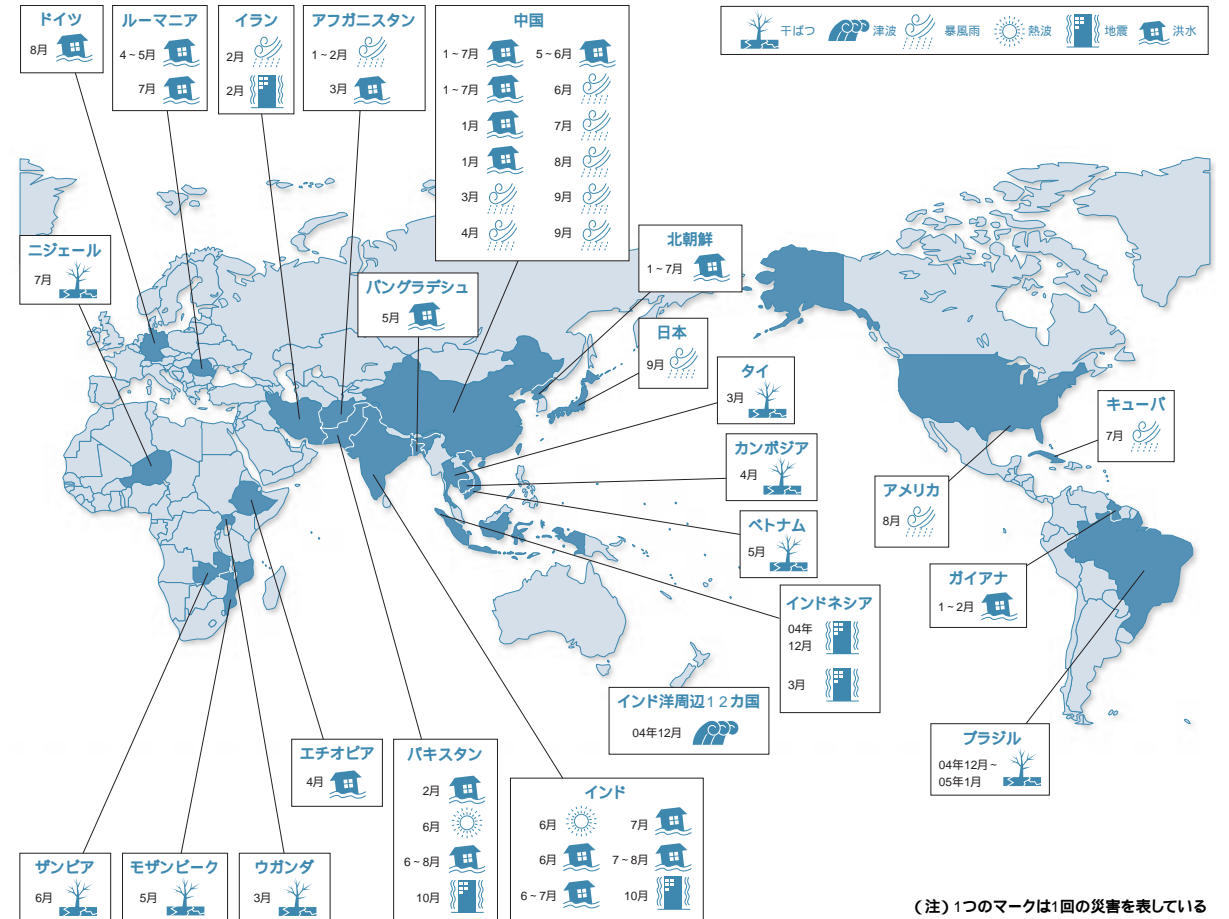
餓、洪水による被災者が多く、南北アメリカは暴風雨(ハリケーン)、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニアは干ばつ・飢餓が一番多い。

ここにグラフはないが、2004年における国の所得別被害額を見ると、低所得国の被害額は高所得国のおよそ4倍となっている。このことから、自然災害による被害の程度は、国の社会・経済レベルが遅れているところほど大きいといえる。グローバル化した今、他国の災害は他人事ではない。世界の持続可能な開発を進めるため、国際社会の協調が必要だ。

A 過去1年間の主な自然災害

DATA

出典：EM-DAT (2005年10月18日現在)、パキスタン赤新月社ウェブサイト、ほか



(注) 1つのマークは1回の災害を表している

災害が集中するアジア

上の地図は、2006年12月26日以降05年10月までに発生した主な自然災害を種類別に示している。ここで取り上げたのは、死者・行方不明者100人以上、被災者10万人以上、被害額1億ドル以上のいずれかの被害を出した災害だ。全体を見渡すと、洪水や暴風雨などの気象災害による影響が大きい。こうした大規模な自然災害が近年頻発する原因として気候変動、森林伐採、人口増加、無秩序な都市化などが指摘されている。地図を見ると、最近の大規模な災害はアジア地域で

多く起きていることが分かる。過去30年間の統計も、世界全体の被災者数の約90%、死者数と経済損失額の約50%以上をアジア地域が占めたことを示している。04年だけでも被災者数の91%、死亡者数の96%、経済損失額全体の68%がアジアでの災害によるものだった。昨年、世界人口の2.3%もの人々が被災した。自然災害は社会や経済、環境に深刻な影響を及ぼし、開発の成果を一瞬で奪ってしまう。防災活動や危機管理活動が開発戦略の一部として組み込まれることが求められている。